

<農地・水・環境保全向上対策と連携して効果的な取組みを実施している事例>

○集落みんなで取組む自然・環境に配慮したむらづくり

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	広島県三次市大田幸町・畑原				
協定面積 23.9ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地	
	水稲・飼料作物・大豆				
交付金額 339万円	個人配分			2.2%	
	共同取組活動 (97.8%)	農道・水路の維持管理			5%
		農業生産活動費 (育苗施設・農機具格納庫)			54%
		鳥獣害防止対策費 (イノシシ柵)			10%
		機械購入積立 (トラクター)			20%
その他の経費			8.8%		
協定参加者	農業者 20 人, 非農家 5 人, 特定農業法人 1 法人 (構成員 25 人)				

2. 取組に至る経緯

当集落は水稲栽培の兼業農家 20 戸と非農家 (土地持ち 4 戸を含む) 5 戸からなる小規模な集落で、営農組合で転作の話し合いを行なう以外は共同的な取組みは実施されていない状況であった。平成 16 年度から市町村合併で対象地域となったのを受けて協定を締結することを決めた。交付金については全額共同取組活動に使用することを確認し、以前から全員の悩みであったイノシシの被害を減らすために、交付金の 8 割を充当して防護柵を共同作業で設置することから開始した。

3. 取組の内容

防護柵設置の共同作業時に話し合う中で、高齢化の進行で将来の農地管理には法人化が必要という合意形成ができ、先進地視察の実施からわずか半年で法人設立するに至った。

農業生産活動では、法人化の取組み前から共同機械作業が必要と考え、トラクター購入のための積立を行なっていたが、設立後には交付金で育苗施設や農機具格納庫兼乾燥処理施設の設置も行なった。

農道・水路の維持管理も共同活動で実施し、集落の景観美化にも取組むこととなり、集落内の農道筋に水仙を植える活動を契機に、平成 19 年度からの農地・水・環境保全向上対策実施取組みの中で、地元の小学校との連携によって、ホタルの生息調査、幼虫の餌のカワニナの放流や竹炭を使った水質改善の活動が実を結び、ホタル祭りの開催に至った。平成 20 年度からはアイガモ農法にも取組んでいる。

環境に配慮していく活動は、法人の経営の中でも特別栽培米生産として高付加価値化につながっており、中山間直接支払事業、農地・水・環境保全向上対策の実施と法人による営農活動を有機的に連携させている。



イノシシ防護柵の設置



小学生とアイガモの放鳥

[集落の将来像]

- 特定農業法人の設立及び法人による農業機械の共同化・農作業の受託により集落営農の継続の実現
- 他集落との連携及び世代を超えた集落全員で企画し、協力し合える集落の実現

[将来像を実現するための活動目標]

- (耕作放棄地発生防止) 鳥獣害防止柵の設置, 法人による耕作継続の受け皿整備, 集落外の畜産農家と連携した水田放牧及び飼料作物の作付け実施
- (共同機械の利用) 共同利用機械・施設の設置による法人への利用集積及び作業受委託の実施
- (多面的機能増進活動) 周辺林地の下草刈, 景観作物の作付けの実施

[活動内容]

農業生産活動等

農地の耕作・管理(田 24ha)

個別対応 (法人への集積)

水路・作業道の管理

- ・水路 5 km, 清掃年 2 回
- ・草刈年 2 回
- ・道路 2 km, 草刈, 簡易補修年 2 回

共同取組活動

農地法面の定期的な点検
(梅雨・台風後の点検)

共同取組活動

鳥獣害防止対策

(防護柵設置: 1.6 km)

共同取組活動

多面的機能増進活動

周辺林地の下草刈り
(約 2 km, 年 1 回)

共同取組活動

景観作物作付け
(水仙植付け
農道沿い 2 km)

共同取組活動

農業生産活動の体制整備

法人による機械・施設の共同
作業化

- ・トラクター, 育苗施設,
農機具格納庫, ミニライスの
整備
- ・法人による共同作業実施

共同取組活動

加算措置としての取組等

規模拡大加算
法人に農地集積
H21: 19.6ha, 目標: 10ha

共同取組活動

農地水と連携した取組み

地元小学校と連携した
ホテルの生息環境整備

環境保全型農業の実践

- ・アイガモ農法: 0.15ha
- ・特別栽培米: 3.1ha

集落外との連携

- ・近隣集落の和牛生産農家と連携して, 転作としての飼料作物の作付け, 堆肥のほ場散布, 和牛の水田放牧を実施
- ・同一水系の近隣集落と共同でため池や用水路の維持管理を実施

4. 取組による変化と今後の課題等

直接支払事業の取組みでまとまりがよくなる中で実現した法人設立により高齢化で耕作断念による農地荒廃の不安も解消され, 農地・水・環境保全向上対策と連携した取組を通じ, 環境美化や生態系に配慮した営農活動が活発化し, さらにはとんどやホテル祭りが住民全員参加の行事として定着してきた一連の活動が, 近隣の集落からも注目される中で, 集落に誇りを持てるようになり, 集落全体の活力が向上しつつある。

今後は, 法人の経営高度化と環境に配慮した特別栽培米の作付けを増やすために, 販路の開拓や地元小学校給食への供給に取組み, 高齢化の進行に配慮した管理の省力化と環境美化にもつながる畦畔への芝桜の定植の拡大を目指すこととしている。

[平成 21 年度までの主な成果]

- 担い手への利用集積による安定的な農業生産活動の実施 (当初 0ha, 目標 10ha, H21 実績 19.6ha)
- 集落外の畜産農家との連携によるほ場への有機物施用 (特別栽培米 3.1ha) や和牛放牧 (1.7ha) による耕作放棄地発生防止
- 農地・水・環境保全向上対策との連携による世代間交流や集落ぐるみの活動の活発化